

高等学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
V	研究内容	4
VI	研究の成果	15
VII	研究の課題	16

研究主題	<b>「思考力、判断力、表現力等」を高めるための、 やり取りを適切に続ける力の育成</b> ～「聞くこと」「読むこと」を「話すこと〔やり取り〕」につなげる 指導を通して～
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

## I 研究主題設定の理由

グローバル化の進展する世界において通用する「使える英語力」を身に付けるには、臆せず積極的にコミュニケーションを図る態度や、相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えや意見を論理的に説明したり、反論・説得したりすることができる能力を育成することが重要である。

「東京都教育ビジョン（第4次）」（東京都教育委員会 平成31年3月）では、基本的な方針の一つとして「グローバルに活躍する人材を育成する教育」が挙げられている。施策展開の方向性として、生きた英語を身に付けコミュニケーション能力を伸ばす教育や、国際社会の発展に寄与する態度を育てる教育を推進していく必要性が挙げられている。

また、平成30年に告示された高等学校学習指導要領では、外国語科の目標として「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」が示された。特に、話すことの項目は、〔やり取り〕と〔発表〕の二つに分けられ、より細かく目標などが定められており、発信能力の育成を強化し、目的や場面、状況等に応じて、生徒が自分で表現できるよう指導することがより一層求められている。

このことから、「話すこと〔やり取り〕」を育成する指導を工夫していくことにより、生徒のコミュニケーション能力を伸ばしていくことが喫緊の課題と考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

「平成29年度英語教育改善のための英語力調査」（文部科学省）によると、生徒の4技能のバランスには課題がある。CEFRにおけるA2レベル（英検準2級）相当以上の力をもつ生徒の割合が「聞くこと（33.6%）」、「読むこと（33.5%）」に対し、「話すこと（12.9%）」、「書くこと（19.7%）」は10%台と低い数値にある。授業においても「話すこと」や「書くこと」の量や内容が限定的である生徒は多く、指導も十分に行っていないといえない。

そこで生徒の発話内容が豊かになるよう、今回は「話すこと」の中でもやり取りに着目し、次の3点を取り上げて研究を進めた。

- (1) 「聞くこと」及び「読むこと」の二つの活動を「話すこと〔やり取り〕」につなげる統合的な指導を工夫する。
- (2) 生徒がやり取りを続けるための支援を行う。
- (3) 指導の前後におけるやり取りの様子を、ルーブリックに基づき指導者が評価を行い、その変容を見る。

(1) について、高等学校学習指導要領（平成30年告示）では、外国語科の目標として、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図

る資質・能力を育成する」と述べられている。そしてその前提として、この目標の達成のために、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して」指導すると言及されている。従来の授業において行われてきた「読むこと」及び「聞くこと」の二つの活動の方法や内容を工夫していくことで、生徒の発話をより豊かにできるのではないかと考えた。

(2) については、生徒はやり取りをしたいという意欲はあっても、既習事項を理解していても活用するに至らない状況がある。そこで帯活動などを利用し、生徒がやり取りを続けるための様々な支援を行うことにした。例えば、論理的に話すための型や、あいづちの仕方を教える、相手に質問する方法を導入するなどである。これにより、やり取りが続くようになり、質的・量的な側面において改善を図ることができると考えた。

(3) については、指導の前後にやり取りを行わせ、その変容を見ることにより、単元内で扱った様々な活動が、より豊かな発話の内容や量につながるかについて検証することにした。やり取りの題材は、単元全体の内容に関する問いとすることで、授業で行った「聞くこと」「読むこと」の活動の効果が、「話すこと [やり取り]」においてより上がると考えた。

### Ⅲ 研究仮説

聞いたり読んだりする言語活動において、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、やり取りを継続することができ、「思考力、判断力、表現力等」が高まるだろう。

「思考力、判断力、表現力等」を高めるためのやり取りを適切に続ける力を育成するためには、「聞くこと」「読むこと」の活動を「話すこと [やり取り]」につなげる統合的な指導を工夫する必要がある。そのためには、導入方法、様々な形態での言語活動、やり取りを続けるための支援、やり取りの目的、場面又は状況設定及び評価方法などを検討する必要がある。

本研究では、統合的な指導に焦点を当て、授業改善を行った。また、指導前後のパフォーマンスタスクの達成度で、その変容を見ることとした。

### Ⅳ 研究方法

#### 1 やり取りを適切に続ける力を育成する授業実践

「思考力、判断力、表現力等」及びやり取りを適切に続ける力を育成し、指導の前後の生徒の変容を適切に測るため、以下の手順に沿って単元の計画を立て、授業実践を行った。

- (1) 単元に関するパフォーマンスタスクを設定する。
- (2) 指導前にパフォーマンスタスクを行い、ルーブリックを基に評価をする。
- (3) 「聞くこと」「読むこと」を「話すこと [やり取り]」につなげる統合的な活動を取り入れた授業実践を行う。
- (4) 指導後に再びパフォーマンスタスクを行い、指導前との変容を分析する。

## 2 授業実践の具体的方策

「思考力、判断力、表現力等」を高めるためのやり取りを適切に続ける力を育成するためには、「聞くこと」及び「読むこと」の活動を基に、授業では以下の実践を行うこととした。

○教科書の題材や関連した内容についてのブレインストーミングを導入で行い、生徒のもつ背景知識を活性化させ、興味・関心を高め、主体的に考える姿勢を育成した。

○新出単語の定着を図るための活動、\*1ワードハント、あいづち音読等の言語活動を生徒の実態を踏まえた形態で行うことにより、内容理解と言語材料の定着を図った。

○\*2OREO・フィラー（つなぎ言葉）・エコーイング（繰り返し）の導入、あいづち表現の練習など、使用する表現や対話の展開方法について、やり取りを続けるための支援を行う。

○聞いたり読んだりしたことに関連したテーマについてのブレインストーミング、ペアでの意見交換、グループディスカッション等を行い、単元全体の内容に関する問いについて、一定時間継続したやり取りを複数回行う。

○単元の内容に関する状況や場面に基づくタスクを設定し、やり取りを行わせる。

○パフォーマンスタスクの実施及び発話の変容を分析する。

## 3 パフォーマンスタスクの評価

パフォーマンスタスクは、他者を尊重する態度・コミュニケーションや相手への関心、発話量・応答性、発話内容・論理性の観点から作成した。評価規準については生徒の実態に応じて設定し、指導の前後にパフォーマンスタスクを行い、達成度の変容を分析する。

評価項目	評価規準	評価
他者を尊重する態度・コミュニケーションや相手への関心	非言語コミュニケーションも行いつつ、やり取りに協力し、相手の考えを引き出そうとしているか。	5・4・3・2・1
発話量・応答性	やり取りの中での発話量が十分か。また、流暢に話し、やり取りの中で不自然な沈黙がないか。	5・4・3・2・1
発話内容・論理性	理由や具体例、具体的な事実を挙げることで、内容に説得力をもたせているか。	5・4・3・2・1

## 4 パフォーマンスタスクの実施と仮説の検証

パフォーマンスタスクは、指導の前後に、別室にて評価対象の生徒と指導者又はペアの生徒とで個別に行う。パフォーマンスタスクと仮説の検証の流れは、以下のとおりである。

- ① 指導者が単元全体の内容に関する問いを提示する。
- ② 定められた時間内で、評価対象の生徒が問いに対する考えについて言及しながら、英語でのやり取りを指導者又はペアの生徒と行う。
- ③ パフォーマンスタスク実施後に無作為に生徒を抽出し、録画したビデオデータを用いて、各評価項目における平均値、平均発話語数を算出する。
- ④ 指導前後の各項目の変容から、適切なやり取りの継続と「思考力、判断力、表現力等」の向上について分析し、仮説の検証を行う。

<sup>1</sup> 教科書等の本文中より、単語や語句を見付ける活動のこと。

<sup>2</sup> O(意見)、R(理由)、E(例/説明)、O(意見)は、生徒が論理的にまとまりのある内容を話したり、書いたりすることを目的としているライティングやスピーキング等の技能を伸ばす活動のこと。

## V 研究内容

### 全体テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

各教科等における「これからの時代に求められる『思考力、判断力、表現力等』」とは

- 1 (思考力) 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりする力
- 2 (判断力) 英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを適切に認識し、自ら発信する内容を正しく決断する力
- 3 (表現力) 伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にししながら、英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを伝え合う力

### 高等学校外国語科における現状と課題

【現状】「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分でなく、複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていない（高等学校学習指導解説（平成30年3月））。さらに、「平成29年度英語力調査」（文部科学省）に見られるように、生徒の現状としては、発話量や内容が限定的である。

【課題】「聞くこと」「読むこと」と「話すこと[やり取り]」とを統合した言語活動を通して、即興性があり自然であり、なおかつ論理性に注意しながらやり取りを続けるための「思考力、判断力、表現力等」を育成することが必要である。

【テーマ設定のための着眼点】「聞くこと」及び「読むこと」の二つのインプット活動を「話すこと[やり取り]」というアウトプット活動につなげる統合的な指導に着目する。

### 高等学校外国語部会

「思考力、判断力、表現力等」を高めるための、やり取りを適切に続ける力の育成  
～「聞くこと」「読むこと」を「話すこと[やり取り]」につなげる指導を通して～

### 仮説

聞いたり読んだりする言語活動において、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、やり取りを継続することができ、「思考力、判断力、表現力等」が高まるだろう。

### 具体的方策

- 1 単元の導入において背景知識を活性化させることにより、興味・関心を高め、主体的に考える意識付けを図る。
- 2 言語活動を様々な形態で行うことにより、内容理解と言語材料の定着を図る。
- 3 使用する表現や対話の展開方法など、やり取りを続けるための支援を行う。
- 4 単元全体の内容に係る問いについて、一定時間継続したやり取りを複数回行う。
- 5 単元の本文で設定されている状況や場面に基づくタスクを設定し、やり取りを行わせる。
- 6 生徒が自ら主体的に学ぶ意欲や態度などを多面的に評価するため、パフォーマンス評価を行う。

### 検証方法

- 1 指導の前後にルーブリックを基に指導者が評価を行い、その変容を分析する。
- 2 パフォーマンスタスクにおける生徒の発話の変容を分析する。

## 1 先行事例等研究

本研究は、指導計画において言語活動を工夫し、「話すこと [やり取り]」の力を育成することに主眼を置いている。主題設定の背景については、I で述べたところであるが、研究に当たり、平成 28 年度から 30 年度までの教育研究員の研究から多くの示唆を得ている。

(1) 平成 28 年度は、テーマである「発信力育成」に向け、統合的な言語活動をどのように授業に取り入れていくか、という視点で研究が行われている。話す力を育成するためには、話す活動の工夫をするのが最善の方法であると一般的に考えられがちであるが、話す力を単独で扱うのではなく、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」を統合した言語活動を通じて、4 技能を伸ばしていく視点が不可欠であるという点が示されていた。

(2) 平成 29 年度の研究では、「話すこと [やり取り]」のタスクに主眼を置いている。新学習指導要領に示された 5 領域のうち、[やり取り]と[発表]の区別に着目した研究である。やり取りでは、コミュニケーションを行う目的、場面及び状況を意識することも求められる。その視点に立ったタスクの開発から示唆が得られた。

(3) 平成 30 年度は、社会的な話題に関するやり取りの研究を行い、今後のタスクとして、やり取りを続ける力の育成を挙げている。この検証結果は、日常的な話題に関するやり取りも、検証の余地があることを示していた。

また、上記の三つの研究では、いずれも検証方法にルーブリックを取り入れている。本研究でも、各報告書の評価項目設定、記述文等を参考にした。

## 2 検証授業の実施

やり取りを適切に続ける力を育成するため、次の取組を実施した。

第 2 学期始め (検証授業 1)	第 2 学期中頃 (検証授業 2)	第 2 学期末 (検証授業 3)
OREO など、やり取りを続けるために必要な知識や技法を習得させた。	生徒の関心を高めるため、語彙や内容理解の指導法、言語活動を工夫した。	習得した知識・技法を用い、生徒自身の関心を言語化させるよう工夫した。

## 3 検証授業 1

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	四修制 4 年次 三修制 3 年次
-----	--------------	----	----------------------

### (1) 単元名、使用教材 (教科書、副教材)

ア 単元名 *Lesson 8 Do We Need That?*

イ 使用教材 COMET Revised English CommunicationⅡ (数研出版)

### (2) 単元の目標

ア 知識及び技能

① 場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。

② 本文の例を通して、多様な観点から考察することの重要性を理解している。

イ 思考力、判断力、表現力等

①本文の内容を聞いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりできる。

ウ 学びに向かう力、人間性等

①「話すこと [やり取り]」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。 ②本文の例を通して、多様な観点から考察することの重要性を理解している。	①本文の内容を聞いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりしている。	①「話すこと [やり取り]」の言語活動に主体的に取り組もうとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画 (9時間扱い)

時間	学習内容・学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1時	・パフォーマンスタスク ・OREOについての理解 ・ペアにおけるやり取り ・新出単語の確認	●			アー① (観察)
第2時	・身の回りの物の必要性に関するやり取り ・本文 (p.86) の導入 ・自動販売機に関するブレインストーミング ・本文 (p.86) の内容理解	●			アー① (ワークシート・観察)
第3時 (本時)	・身の回りの物の必要性に関するやり取り ・ペアであいづちを打ちながら行う音読 ・OREOを用いた本文の内容の復元及びペアにおけるやり取り		●	●	イー① (観察) ウー① (観察)
第4時	・身の回りの物の必要性に関するやり取り ・ブックカバーに関するブレインストーミング (日→英) ・本文 (p.88) の内容理解	●			アー② (ワークシート・観察)
第5時	・ブレインストーミングで書いた英語の必要性の有無による分類 ・ペアであいづちを打ちながら行う音読 ・OREOとブレインストーミングの言葉を用いた本文の内容の再構築及びペアにおけるやり取り		●	●	イー① (観察) ウー① (観察)
第6時	・身の回りの物の必要性に関するやり取り ・駅のアナウンスに関するブレインストーミング (日→英) ・本文 (p.90) の内容理解	●			アー② (ワークシート・観察)
第7時	・ブレインストーミングで書いた英語の必要性の有無による分類 ・ペアであいづちを打ちながら行う音読 ・OREOとブレインストーミングの言葉を用いた本文の内容の再構築及びペアにおけるやり取り		●	●	イー① (観察) ウー① (観察)
第8時	・パフォーマンスタスク 身の回りの物の必要性に関するやり取り ・ループリックによる指導者の評価		●	●	イー① (観察) ウー① (観察)



第9時	・使役動詞の用法の確認				形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。
-----	-------------	--	--	--	-----------------------

(5) 本時 (全9時間中の3時間目)

ア 本時の目標

本文(p.86)の内容を自分の意見を含んだ形で再構築して話すことができる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

前時に実施したブレインストーミング等により内容について主体的・対話的に考えた結果、自分の立場を支持するための理由を単語レベルであっても述べることができる。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 7分	・挨拶 ・本時の目標を確認する。 ・レジ袋の必要性について、ペアでやり取りする。	・単元末のパフォーマンスタスクで選ぶ題材の一つがレジ袋であり、やり取りをペアで練習させておく。	
展開1 10分	・「あいづち音読」を行う。 ・CDを聞いて、発音を確認する。 ・あいづちに関する表現を確認する。 ・ペアになり、一人が一文ずつ音読し、もう一人が英語であいづちを打つ。	・あいづち表現のリストを配布する。 ・あいづちの適切なタイミングを考えながら音読を行うよう伝える。	
展開2 25分	・本文(p.86)の内容の再構築 ・教員による実演を見る。 ・本文(p.86)の主題について、賛成か反対か立場を明確にする。 ・ペアのうち一人が自分の意見を述べ、もう一人が質問などをする。終わったら役割を交代する。 ・自分の意見について再考する。 ・ペアを変えてやり取りをする。	・OREOの型をスライドで提示しておく。 ・E(例示、説明)のみ生徒に考えさせ、文で話せなくとも構わないこと、それ以外は本文から抜き出してよいことを伝える。 ・ワークシートにメモはしてもよいが、原稿は書かないように伝える。 ・話しやすい雰囲気を重視するため、ある程度教員がペアを指定する。	イー①(観察) ウー①(観察)
まとめ 3分	・本時の振り返り ・本時の目標への達成度を自己評価して書く。	・やり取りに向けたメモについて、ワークシートを回収後に確認する。	

(6) 本時及び単元の振り返り

ア やり取りに関する活動の手順

本単元において次のように進めた。

- ①単元の始めにパフォーマンスタスクを実施し、やり取りに関して評価を行った。
- ②O(意見)、R(理由)、E(例/説明)、O(意見)という表現の型を説明した。
- ③帯活動の時間を設け、単元全体の内容に関する問いについて上記②の型を用いてやり取りの練習を行わせた。問いの題材は次のものである。  
・24時間営業の店は必要か ・レジ袋は必要か ・印章は必要か ・包装は必要か
- ④各パートの内容理解に先立ち、その題材についてブレインストーミングを行わせた。
- ⑤本文の各パートを理解した後、「あいづち音読」を行わせた。
- ⑥各パートの内容の主旨に関して、その賛否を説明する問いを設定した。賛否に合わせて、上記④で書いた言葉を分類させた。
- ⑦上記⑥の問いについて、分類したキーワードを用いてやり取りを行わせた。
- ⑧単元の終わりにパフォーマンスタスクを実施し、ループリックを用いて評価を行った。

評価項目	5	4	3	2	1
(他者を尊重する態度) 非言語コミュニケーションも行って、やり取りに協力している。	うなずきやアイコンタクトなど、非常に協力的な態度が見られる。	うなずきやアイコンタクトがたまにあり、やや協力的な態度が見られる。	やや不自然さがあるものの、やり取りに協力的である。	目線や受け答えの様子から、あまり協力的な態度が見られない。	協力的な態度がほぼ見られない。
(発話量) やり取りの中での発話量が十分か。また、流暢に話しているか。	不自然な沈黙がなく、文レベルの自分の言葉でやり取りしている。	あまり沈黙がなく、ある程度は文レベルで、やり取りしている。	単語レベルではあるが、やり取りをしている。	10秒程度の不自然な沈黙が少しある。	ほぼ受け答えをしていない。
(論理性) 理由や具体例を挙げることで、内容に説得力をもたせている。	複数の理由や具体的な例などを述べることで客観的な根拠を示している。	文レベルで理由を一つ述べることができる。	単語レベルで理由を述べることができる。	支援があれば、単語レベルで理由を述べるができる。	理由を述べることができない。

#### イ 単元の振り返り

単元の始めと終わりにおけるパフォーマンスタスクについて、上記のルーブリックを用いて評価を行ったところ、平均値は次のとおりであった。

評価項目	単元の始め	単元の終わり
他者を尊重する態度	3.4	4.6
発話量	1.4	3.9
論理性	1.4	3.9

最初は表現の型を知らないため、次に何を話せばよいか戸惑う生徒が多かったが、単元の終わりには帯活動における練習や、内容に関するやり取りにより、やり取りに向かう積極性が見受けられるようになった。また、やり取りはいずれも1分間程度であったが、単元の始めにおける生徒の発話語数は平均10.0語で、そのほとんどが「えー」「あー」といった意味をもたない言葉や日本語による受け答えであった。

やり取りは帯活動や内容理解の後に行わせたが、物事を多角的に考えることに慣れていないこともあり、最初は理由を思いつかない生徒が多かった。しかし、回数を重ねていくにつれ、与えられた題材について真剣に考え、自分で考えた理由を述べるようになった。

単元の終わりにおける発話語数は平均23.9語となり、全員が与えられた表現の型を用いて自分の考えを述べる事ができた。

#### ウ 今後の課題

単元の終わりにおけるパフォーマンスタスクは、四枚の写真から生徒が一枚を選び、それに対する必要性の有無について話すものである。即興的に話すことが卒業までの最終的な目標であるが、今回は生徒に自信をもたせるために事前にタスクの内容を提示し、単語については事前に調べることを許可した。それにより、生徒は前向きに取り組むことができたが、今後は即興性のあるやり取りへと段階的につなげていくよう、改善する必要がある。

## 4 検証授業2

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	第2学年
-----	--------------	----	------

### (1) 単元名、使用教材(教科書、副教材)

ア 単元名 *Lesson 6 Why Is It That Shape?*

イ 使用教材 COMET Revised English CommunicationⅡ(数研出版)

## (2) 単元の目標

### ア 知識及び技能

①場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。

②本文の例を通して、多様な観点から考察することの重要性を理解している。

### イ 思考力、判断力、表現力等

①本文の内容を聞いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりできる。

### ウ 学びに向かう力、人間性等

①コミュニケーションに関心を持ち、「話すこと [やり取り]」の言語活動を積極的に行い、コミュニケーションを図ろうとしている。

## (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。 ②本文の例を通して、多様な観点から考察することの重要性を理解している。	①本文の内容を聞いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりしている。	①コミュニケーションに関心を持ち、「話すこと [やり取り]」の言語活動を積極的に行い、コミュニケーションを図ろうとしている。

## (4) 単元の指導と評価の計画 (7時間扱い)

時間	学習内容・学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習</li> <li>・OREOの確認</li> <li>・パフォーマンススタスク</li> </ul>	●		●	アー① (観察) ウー① (観察)
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯活動 身の回りの物がなぜその形かについてやり取りする。</li> <li>・新出語彙・表現の導入</li> <li>・本文 (p.60) の scanning (本文中から特定の情報を読み取る。)</li> <li>・新出文法事項の説明</li> </ul>				形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。
第3時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Warm Up</li> <li>・新出語彙・表現 (p.60) の復習</li> <li>・内容に関連した質問に対するグループディスカッション</li> <li>・グループディスカッションの意見をペアで共有</li> <li>・ペアで共有した意見を発表</li> <li>・本文 (p.60 前半) の内容理解</li> </ul>	● ●	●		アー①② (観察) イー① (観察)
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯活動 身の回りの物がなぜその形かについてペアでやり取りする。</li> <li>・本文 (p.60 後半) の内容理解</li> <li>・音読①Choral Reading (指導者のモデルの後にクラス全員で音読する。)</li> <li>・音読②Buzz Reading (生徒がそれぞれ自分の速度で本文の該当箇所を音読する。)</li> <li>・音読③あいづち音読 (ペアで一人が一文ずつ音読し、もう一人があいづちを打つ。)</li> <li>・新出語彙・表現 (p.62) の確認</li> <li>・本文 (p.62) の scanning</li> </ul>	●		●	アー① (観察) ウー① (観察)

第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Warm Up</li> <li>・ 新出語彙・表現の復習</li> <li>・ 内容に関連した質問にペアで意見交換</li> <li>・ ペアで共有した意見を発表</li> <li>・ 本文 (p. 62) の内容理解</li> <li>・ 音読①Choral Reading</li> <li>・ 音読②Buzz Reading</li> <li>・ 音読③疑問詞音読 (ペアで一人が一文ずつ音読し、もう一人が疑問詞を言って次の一文を促す。)</li> </ul>	●	●		アー①② (観察) イー① (観察)
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帯活動 身の回りの物がなぜその形かペアでやり取りする。</li> <li>・ 前時の復習</li> <li>・ 新出語彙・表現の確認</li> <li>・ 本文 (p. 64) の scanning</li> </ul>				形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Warm Up</li> <li>・ 新出語彙・表現の復習</li> <li>・ 本文 (p. 64) の内容理解</li> <li>・ 音読①Choral Reading</li> <li>・ 音読②Buzz Reading</li> <li>・ 音読③疑問詞音読</li> <li>・ パフォーマンスタスク</li> </ul>		●	●	イー① (観察) ウー① (観察)

(5) 本時 (全7時間中の3時間目)

ア 本時の目標

本文(p. 60)の内容に関連した質問に対し自分の意見を話す。

イ 仮説に基づく本時のねらい

グループディスカッションにおいて主体的・対話的に考えを深めた結果、自分の意見を論理的に述べることができる。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 4分	1. 挨拶 2. Warm Up Lesson 5 Part 3 の復習 (Sight Translation) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアに分かれ、じゃんけんをする。</li> <li>・ 一人が英語をチャンクごとに読み、もう一方が読まれた英語を日本語に訳す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文を聞いた生徒は教科書に頼らずに聞いた英語を基に、日本語に訳すようにする。また、時間制限を設けてタスクをやり遂げる必要性をもたせる。</li> </ul>	
展開1 10分	1. 新出語彙・表現の復習： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スライドを見て JET に続いて発音する。</li> <li>・ グループに分かれる。</li> <li>・ グループ内から一人が立ち、スライドで示された絵を見て、練習した表現を復元し、挙手をして答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の活動につながるよう意味を考えて発音させる。</li> <li>・ タスクをやり遂げる必要性をもたせるため、チーム間の競争意識を高め、ヒントを適宜与える。</li> </ul>	

展開2 25分	1. グループディスカッション ・OREOの確認を行う。 ・グループに分かれる。 ・ある物の絵を見ながらこれらが通常のものどどのように異なっているかをグループで話し合う。 ・他グループの生徒とペアになる。 ・OREOを基に、グループで話し合った内容をペアで伝え合う。 2. 発表 各グループから一人が、内容をクラス全体に向けて発表する。	・教員とJETが生徒に例を示す。 ・思考的活動を深くまで掘り下げられるよう、日本語の使用を許可する。 ・ペア活動では、英語のみ使用させる。 ・自分のグループで話し合った内容を発表させ、「話すこと」自体に焦点を当てる。次回は、ペアの相手から聞いた情報を発表させ、「話すこと[やり取り]」により焦点を当てる。	ア①②（観察） イー①（観察）
展開3 10分	1. 本文の内容理解		
まとめ 1分	1. Closing 次回の授業の範囲や宿題を周知		

## (6) 本時及び単元の振り返り

### ア 「やり取り」に関する活動の手順

- ①単元の初めにパフォーマンスタスクを実施し、指導前の評価を行った。
- ②OREOの確認をした。
- ③帯活動の時間を設け、各生徒に2枚の異なる商品の写真を渡し、上記②の型を用いてどちらの商品のほうがより利便性があるか説明させた。
- ④帯活動において個人で考えさせていた活動をグループディスカッションでも行った。表現の仕方をグループディスカッションで練習させ、帯活動で再度ペア活動に戻した。
- ⑤Part 1の本文の内容を確認した後、「あいづち音読（ペアの一人が一文ずつ音読し、もう一人があいづちを打つ。）」を行わせた。
- ⑥Part 2、3の内容を確認した後、「疑問詞音読（ペアの一人が一文ずつ音読し、もう一人が疑問詞を言って次の一文を促す。）」を行わせた。
- ⑦単元の終わりにパフォーマンスタスクを実施し、以下のルーブリックを用いて評価を行った。

評価項目	5	4	3	2	1
コミュニケーションへの関心・意欲・態度：非言語及び言語コミュニケーションも行いながら、やり取りに協力しているか。	うなずき、アイコンタクトなどだけでなく、言語的・非言語的・非言語的・非言語的にも積極的にやっている。	うなずき、アイコンタクトや、言語的・非言語的・非言語的・非言語的にも協力的な態度が見られる。	やや不自然ではあるものの、アイコンタクトや、言語的・非言語的・非言語的・非言語的にも協力的である。	うなずき、アイコンタクトや、言語的・非言語的・非言語的・非言語的にもあまり協力的な態度が見られない。	協力的な態度がほぼ見られない。
発話量：やり取りの中での発話量が十分であるか。また、流暢に話しているか。	不自然な沈黙がほとんどなく、自分の言葉でやり取りが文レベルでできている。	あまり沈黙がなく、自分の言葉でやり取りが文レベルでできている。	沈黙が見受けられたり、自分の言葉でやり取りが単語レベルで行われている。	5～10秒程度の不自然な沈黙が多く見受けられる。	ほぼやり取りができていない。
論理性：理由や具体例を挙げることで、内容に説得力をもたせているか。	複数の理由や具体的な例などを客観的に根拠を示している。	文レベルで理由を一つ述べることができる。	単語レベルで理由を述べることができる。	相手の支援があれば、単語レベルで理由を述べることができる。	理由を述べることができない。

### イ 単元の振り返り

単元の始めと終わりにおけるパフォーマンスタスクについて、上記のルーブリックを用いて評価を行ったところ、平均値は次のとおりであった。

評価項目	単元の始め	単元の終わり
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	3.1	3.3
発話量	2.8	3.5
論理性	2.7	3.3
発話語数	41.7	54.5

本単元を導入する前から表現の型を練習していたため、単元の指導前からどのように話をすればよいのか分からないという生徒は見られなかった。聞いたり読んだりする言語活動についてはブレインストーミングやグループディスカッションを行ったことにより、単元の終わりにはルーブリックの各評価項目において、より高い値を得ることができた。

単元始めのパフォーマンスタスクでは、OREOのEの部分で話す内容が思い浮かばない生徒が多かった。単元を通してOREOの型で話す中でもやはりEの部分が生徒にとって難しい部分であった。しかし、指導後のパフォーマンスタスクにおいては例や説明のアイデアが出しやすくなった様子が見られた。

また、活動において、事前に準備時間を与えないようにしたところ、検証授業1で挙げられた即興性についても改善することができた。

#### ウ 今後の課題

評価項目別に伸びを見てみると、発話量は0.7、論理性は0.6伸び、発話語数も約13語程度増えた。一方で、コミュニケーションへの関心、意欲、態度の伸びは0.2のみと伸び悩んだ。音読で「あいづち音読」や「疑問詞音読」を導入したが、これらの活動をどのように実際の「やり取り」につなげていくかが課題である。

## 5 検証授業3

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	三修制2年次
-----	--------------	----	--------

### (1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 *Lesson 4 Chanel's Style*

イ 使用教材 LANDMARK Fit English CommunicationⅡ（啓林館）

### (2) 単元の目標

ア 知識及び技能

① 場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。

イ 思考力、判断力、表現力等

① 本文の内容を聞いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりできる。

② 一定の話題を基に、「話すこと[やり取り]」の言語活動ができる。

③ 一定の話題を基に、「話すこと[発表]」の言語活動ができる。

ウ 学びに向かう力、人間性等

① 「話すこと[やり取り]」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

② 「話すこと[発表]」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

③ 調べ学習に積極的に取り組んでいる。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①場面や状況、目的に応じた表現や論理の展開に必要な表現に関する知識を身に付けている。	①本文の内容を開いたり読んだりしたことを踏まえて、情報や考えについて互いに質問したり質問に答えたりしている。 ②特定の話題について、「話すこと[やり取り]」の言語活動をしている。 ③特定の話題について、「話すこと[発表]」の言語活動をしている。 ④特定の話題について、情報や考えを英文にまとめている。	①学習に積極的に取り組んでいる。 ②「話すこと[やり取り]」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 ③「話すこと[発表]」の言語活動に積極的に取り組んでいる。

(4) 単元の指導と評価の計画 (16時間扱い) \*各授業は2時間連続の授業である。

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1・2時	・中間考査振り返り ・「中間考査振り返り」をテーマに「話すこと[やり取り]」を行う ・Lesson 4の本文についての導入 ・Part 1の新出語句の確認 ・Part 1の内容理解	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー②(観察) ウー②(観察)
第3(本時)・4時	・前時の振り返り ・エコーイングの練習 ・単語練習 ・Part 2の導入 ・Part 2の新出語句の確認 ・Part 2の内容理解(1)	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー①(観察) ウー②(観察)
第5・6時	・単語テスト ・Part 2の内容理解(2) ・質問文の作り方の学習 ・自作した質問文を基にした「話すこと[やり取り]」	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー①(観察) ウー②(観察)
第7・8時	・単語練習 ・Part 2の内容理解(3) ・調べ学習「Influential Persons in History」	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー④(観察) ウー①(観察)
第9・10時	・単語テスト ・Part 3の導入 ・Part 3の新出語句の確認 ・Part 3の内容理解(1) ・発表活動「話すこと[発表]」	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー③(観察) ウー③(観察)
第11・12時	・単語練習 ・Part 3の内容理解(2) ・調べ学習を基にした「話すこと[やり取り]」(1)	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー②(観察) ウー②(観察)
第13・14時	・単語テスト ・Part 4の導入 ・Part 4の新出語句の確認 ・Part 4の内容理解(1) ・調べ学習を基にした「話すこと[やり取り]」(2)	●	●	●	アー①(ワークシート・観察) イー②(観察) ウー②(観察)

第15・16時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語練習</li> <li>・Part 4 の内容理解 (2)</li> <li>・「話すこと[やり取り]」のパフォーマンステスト</li> </ul>	●	●	●	アー① (ワークシート・観察) イー② (観察) ウー② (観察)
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	---	-----------------------------------------

### (5) 本時 (全 16 時間中の 3 時間目)

#### ア 本時の目標

自分の中間考査の結果を話題にして、エコーイングを活用しながら「話すこと [やり取り]」の活動を積極的に行う。

#### イ 仮説に基づく本時のねらい

フィラー、切り返し、エコーイングなどを活用することにより、どちらかが一方的に話すだけではなく、お互いへの問いかけや返答を行う力が伸長していく。これにより、「話すこと [やり取り]」の活動がより活発にできるようになる。

#### ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・本時の目標を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと[やり取り]」のために前時で練習した内容を振り返る。</li> </ul>	
展開1 10分	ワークシートを基に、フィラーや切り返しの追加フレーズを練習 1 例文を音読 2 ペアで、例文通りに質問と答えのやり取りを体験し、受け答えの感覚をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で練習したフィラーや切り返しのフレーズを復習する。</li> <li>・どのような状況や心情の時に使うべきフレーズかを説明し、発音の例を示す。</li> <li>・適切に発音できるよう音読練習を行う。</li> <li>・やり取りを体感させる。</li> </ul>	イー② (観察) ウー② (観察)
展開2 15分	エコーイングを導入し、練習 1 例文を音読 2 例文を参照しながら、ペアでやり取りを行う。 3 何も参照せずに、ペアでやり取りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコーイングとは何か、また、その目的を理解させる。</li> <li>・どのような状況や心情の時に使うべきフレーズかを説明し、発音の例を示す。</li> <li>・適切に発音できるよう音読練習を行う。</li> <li>・やり取りを体感させる。</li> </ul>	イー② (観察) ウー② (観察)
展開3 15分	Lesson 4 Part 2 1 導入 2 新出語句の確認 3 ワードハント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTパソコンでPart 2に関連する映像を示す。</li> <li>・新出語句の発音を確認する。</li> <li>・CD を聞きながら本文中の新出語句に印を付ける。</li> <li>・新出語句のスペリングを確認する。</li> <li>・ワードハント問題に取り組む。</li> <li>・生徒同士で解答を確認する。</li> </ul>	アー① (ワークシート・観察) ウー① (観察)
まとめ 2分	本時の活動と学習内容を振り返る。 次時の予定を伝え、5分間の休憩に入る。		

### (6) 本時及び単元の振り返り

#### ア やり取りに関する活動の手順

- ①前単元の終わりにパフォーマンスタスクを実施し、指導前の状態における評価を行った。
- ②表現の型 (OREO) を導入した。
- ③本単元のテーマである「歴史上の偉人 (Influential Persons in History)」について、やり取りを行うための背景知識を蓄積するために調べ学習を行わせた。教科書掲載のチャンネル以外の人物を取り上げ、グループごとにその人物の業績や経歴について調べさせた。
- ④教科書を基に質問文を作り、それに答える練習をペアワークで行わせた。
- ⑤授業毎に、やり取りを継続するために役立つ表現を導入し、練習させた。



⑥指導後にパフォーマンスタスクを実施し、ルーブリックを用いて評価を行った。

評価項目	5	4	3	2	1
(相手への関心) 相手の考えを引き出そうとしているか。	相手の考えを十分に引き出そうとしている。		相手の考えを多少引き出そうとしている。		相手の考えを引き出そうとしていない。
(応答性) 2分間のやり取りの中で不自然な沈黙があるか。	不自然な沈黙がない。	10秒程度までの不自然な沈黙が少しある。	10秒程度までの不自然な沈黙が何度もある。	10秒以上の不自然な沈黙がある。	不自然な沈黙しかない。
(発話内容) 理由や具体的な事実を述べることで、内容に説得力をもたせている。	文レベルで理由や事実を十分述べ、相手が納得できるように説明できている。	文レベルで理由や事実を十分述べることができる。	文レベルで理由や事実を多少述べることができる。	単語レベルで理由や事実を述べることができる。	理由や事実を述べることができない。

イ 単元の振り返り

指導の前後におけるパフォーマンスタスクについて、上記のルーブリックを用いて評価を行ったところ、平均値は次のとおりであった。

評価項目	単元の始め	単元の終わり
相手への関心	1.2	4.7
応答性	3.5	4.1
発話内容	3.4	4.4

最初はやり取りすること自体への抵抗感や、表現を知らなかったことにより、見本となる英文を発話するだけでその後は沈黙したまま終わるといった状況だった。しかし、毎時間、少しずつやり取りのヒントや英語表現を導入していった結果、「最初の挨拶、特定の話題に関するやり取り、最後の挨拶」という流れで対話を繋ごうとする姿勢が見られるようになり、発話量が増え、取り組む表情も明るくなっていった。時間制限を設けずに練習させた際には、想定時間（2分程度）を超えても会話を続けるペアが多く見られた。

最後のパフォーマンスタスクは制限時間をあえて明確に提示せずに行ったが、最長で5分程度も会話を続けるペアも見られた。指導前における生徒の発話語数は平均16.2語/分だったが、指導後には平均30.2語/分となった。個人差はあるが、ほとんどの生徒の発話語数が指導後において増えたことが確認できた。

## VI 研究の成果

### 1 インプット時の言語活動及び「話すこと [やり取り]」の変容について

#### ① 知識及び技能

ルーブリックのうち「発話量・応答性」に対応する部分で、検証授業を行った3校全てで一定時間における発話語数の増加が見られ、不自然な沈黙が減少した。このことからフィラーやエコーイング、あいづち音読、質問作成などの指導が、目的や場面、状況などに応じて適切にやり取りを続ける力の伸長に有効であったと考えられる。

#### ② 思考力、判断力、表現力等

ルーブリックの「発話内容・論理性」に対応する部分では全ての検証授業において増加が見られた。これは、理解した内容を使ってやり取りにつなげていくために、単元全体に係る質問を設定し、グループにおける意見交換や共有、ブレインストーミング、メリットとデメリットによるキーワードの分類など、生徒主体の活動を取り入れたためと考えられる。特に「読むこと」、「聞くこと」の本文の内容理解を深める言語活動が、やり取りを行う上での説明や例示に直結したためと考えられる。

### ③ 学びに向かう力、人間性等

「他者を尊重する態度・コミュニケーションや相手への関心」については、うなずきやアイコンタクトなどの非言語コミュニケーションでは伸びが見られたものの、検証授業2では、言語的にやり取りを続ける力に伸びが十分には見られなかった。その課題を踏まえ、検証授業3ではフィラーやエコーイングなどを重点的に指導した結果、生徒がやり取りを続けられるようになった。

以上の三点を通して、自分の考えを深めさせながら、対話的な学びを加えることでインプットの質が高まり、それがアウトプットの質につながっていることも本研究で確認できた。

## 2 検証授業が実施された学校での成果

本研究では、様々な特色のある学校において検証授業を実施した。これらの学校においては、生徒数や生徒層の多様さから、対話的な学びに向けて、生徒が安心して発話できる状況を整えるなどの配慮が必要な場合が多い。そのことが言語活動に影響をもたらし、話すことの活動自体が少なくなる懸念があり、本研究が同じような状況の中で生徒の「話すこと〔やり取り〕」の伸長を目指す実践の事例を提供できると考える。

## VII 研究の課題

### 1 他者とのコミュニケーションに対する抵抗感への対応

学校には他の生徒等とのコミュニケーションをとること自体が苦手と感じる生徒も在籍していることもある。他の生徒等との関係性を配慮しつつ、一人一人の生徒がコミュニケーション能力を伸長できるような支援について実践を重ねていくことが課題である。

### 2 やり取りの質を向上させるための適切な指導や支援

やり取りの質を向上させるには、内容面、論理性や正確さを向上させることが必要である。しかし、生徒に常に論理性や正確さを求めることは、生徒の意欲を失わせることが懸念される。生徒が既存の知識を活用しつつ、自分の意見や考えを即興で表現できる範囲を広げるためにどのようにして指導していくかについて、文法事項や語句の指導の在り方と併せて更なる検討が必要である。

### 3 やり取りの言語活動における時間の確保

「話すこと」のための活動時間を盛り込んだ上で、年間授業計画を策定することが必要である。そのために、3年間（定時制であれば4年間）を通じて、帯活動等において「話すこと」の指導を継続していくことも課題である。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

高等学校・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立両国高等学校附属中学校	教 諭	宮 本 真 吾
東京都立篠崎高等学校	主任教諭	○川 上 佐知子
東京都立三宅高等学校	教 諭	立 石 健 悟
東京都立桜修館中等教育学校	教 諭	前 田 秋 輔
東京都立砂川高等学校	教 諭	五十嵐 哲
東京都立砂川高等学校	教 諭	鈴 木 幸 子
東京都立青梅総合高等学校	主幹教諭	◎内 村 直 人

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 野寄 篤子

平成 31 年度 (2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
高等学校・外国語

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849